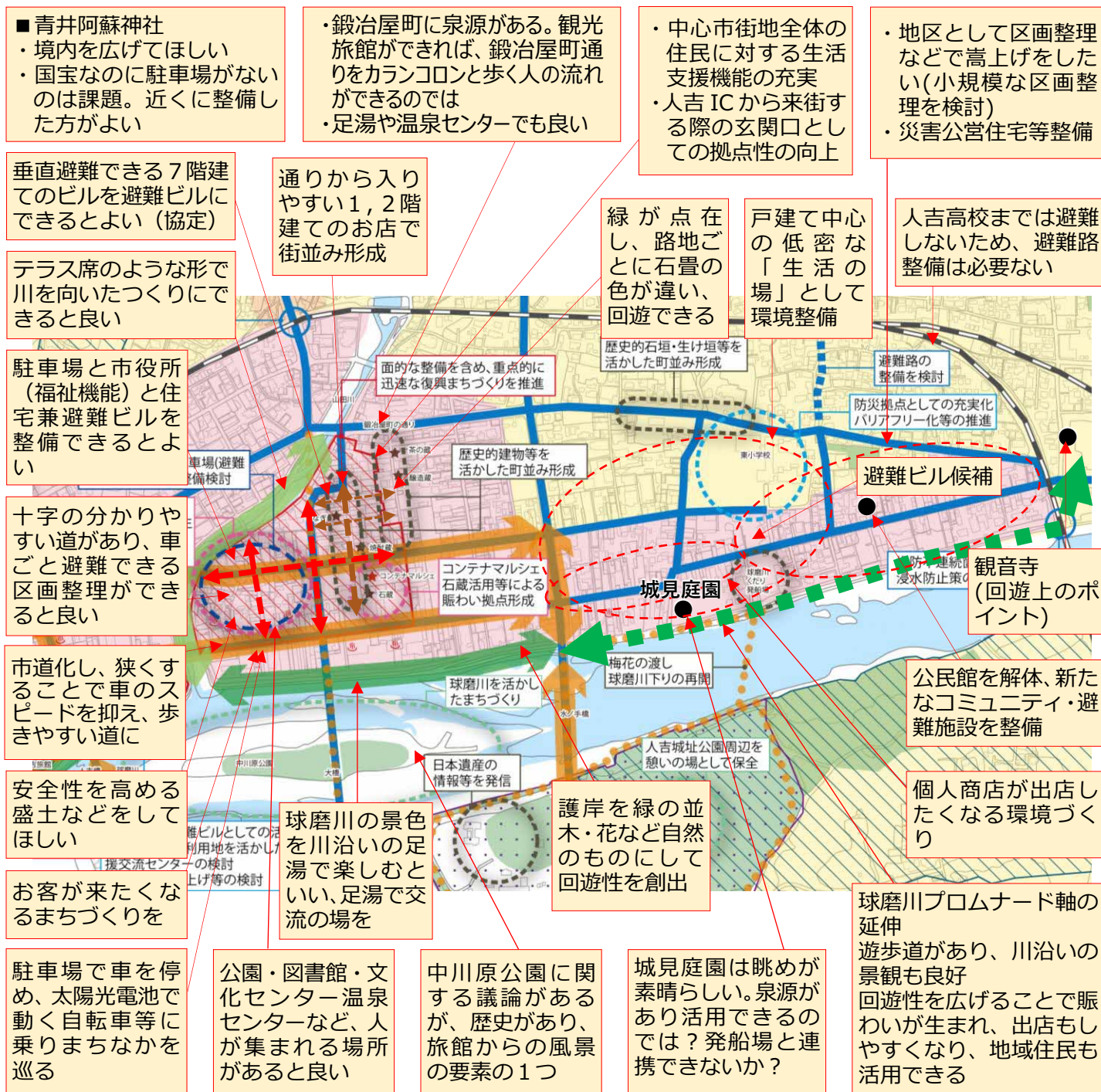


中心市街地の『復興まちづくりのイメージ案』について ～第3回懇談会の意見概要②～

黄色網掛け箇所が第3回懇談会の参加者の意見です。（※決まった内容や事実確認をした内容ではありません）

中心市街地 復興まちづくりのイメージ(案)



凡例



地区別懇談会だより

Vol.2

中心市街地

～みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり～

『地区別懇談会(第3回)』を開催しました

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」として位置づけ、それぞれの地区ごとに「地区別懇談会」で話し合いを進めています。

中心市街地の対象地区は、九日町、七日町、五日町、二日町、鍛冶屋町、大工町、紺屋町、上新町、下新町、鶴田町、北泉田町、南泉田町です。

◆第3回地区別懇談会

- 1 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明
・地区別懇談会の振り返りと情報提供
・懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向案、イメージ案と参考事例について
- 2 地区ごとの話し合いと全体共有
・復興まちづくりの方向案(課題、取組方針、具体的取組み案)について
・復興まちづくりのイメージ案について
- 3 今後の進め方と次回日程の調整



6月15日(火)18時から人吉東小学校体育館で開催しました。(参加人数56人)

懇談会の進め方について ～復興まちづくり計画の策定に向けて～

地区別懇談会での検討をもとに、具体的な復興まちづくりの取組を「復興まちづくり計画」に反映していきます。

◆地区別懇談会の参加方法

- ・対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます。
※可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただきます。
- ・参加申込は随時受け付けておりますので、復興支援課までお問合せください。
多くの方のご参加をお待ちしております。

◆地区別懇談会の進め方

- ・7～9月の間に、概ね月1回(3～4回程度)の開催を予定しています。

次回の開催予定：第4回 7月11日(日)14時00分より

次回のテーマ予定：復興まちづくりの具体的なイメージや手法案について

会場：人吉東小学校体育館

◇復興まちづくり計画とは

- ・復興計画を実現するために取り組むべき内容を検討・整理したものです。
- ・特に被害の大きい特定地域(重点地区)などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- ・住民主役の計画づくり(策定主体は主に住民)に対して、行政が支援し、計画策定をめざします。
- ・計画期間は、令和4～9年度の概ね6年間。(令和3年度からの一部実施も想定)

◇お問い合わせ◇

人吉市役所 復興局 復興支援課
〒868-8601 熊本県人吉市下城本町 1578-1
Tel:0966-22-2111(内線:8893) Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

参加
募集中



□は方向案の柱、**赤字**は事務局側での記載事項です。黄色網掛け箇所が第3回地区別懇談会における参加者の意見です。（※決まった内容や事実確認をした内容ではありません）

意見集約のキーワード （復興計画の3つの柱）	地区の主な課題 （地区の復興まちづくりに向けた主な課題）	取組み方針 （課題解決のための取組み方針の柱）	具体的取組み（案） ※実現化に向け、今後検討が必要
①被災者のくらし再建と コミュニティの再生 【住まい再建】 【コミュニティ再生】	☐ 住まいの再建と安全性の向上 ・個別の嵩上げは難しい。 ・宅盤沈下や路床が陥没した箇所がある。 ☐ 地域コミュニティの再生	☐ 安全な住まいの確保 ・民地に適用できる地盤調査や改良などに関する支援制度の活用。 ・区画整理で面的な嵩上げ(小規模な区画整理などを検討)。 ・中心市街地の方々が移り住めるような災害公営住宅整備を上新町・下新町に整備すると良い。 ☐ コミュニティの拠点の再生	☐ 安全性を高める建て方の誘導 ☐ 町内会の集会所等の再建 ・下新町の公民館を解体し、コミュニティ・避難施設として整備し、他の町会の方も利用できるような形に。 ☐ 町内会の連絡網の再整理
②力強い地域経済の再生 【生業再建】	☐ 生業の再建と中心市街地の再生 ・高齢者(免許返納者)など交通弱者の生活(買物、医療など)を支援する施設等の立地が必要。	☐ 中心市街地の再生に向けた環境づくり ・ここで商売・事業ができないと戻れない、人がいない所では商売にならない→お客が来なくなるまちづくりを。 ・個人商店が出店したくなるような環境づくり。 （定住人口の増加、渡船場との連携など） ・人がいない所では商売にならない。お客が来なくなるまちづくりを。 ・嵩上げて、1F 店舗での営業がいい。商店街をそぞろ歩きできるように。	☐ 個々の事業所の再建支援 ☐ 継続的な賑わい創出の取組 ・球磨川プロムナード軸を活用した回遊、賑わいの創出。 ・古く趣のある建物や緑地を結ぶ散策路を整備。 ・人吉ひかりの復興計画などとも連携した夜の散策ルートの整備。
③災害に負けないまちづくり 【避難対策】	☐ 避難のタイミングの判断 ☐ 安全な避難ルートの確保 ☐ 町単位の避難体制の構築	☐ 「安全な避難」のための「平常時の準備」 ☐ 安全な避難路の整備 ・人吉高校までは避難しないため、避難路整備は必要ない。 ・安全な避難としては、徒歩避難一択。 ・車両避難のため人吉高校までの避難ルートの確保。 ☐ 地域性を踏まえた避難体制の構築 ・九日町から避難所へは遠い。代わりになる施設（避難所を兼ねた）をつくるとどうか？（寝泊まりも可能な場所）	☐ 地域特性を踏まえたマイ・タイムライン、地区防災計画の作成 ☐ 地区内の主要道路・避難路の整備 ☐ 防災情報の伝達機能の強化 ☐ 自助共助の避難体制の構築 ☐ 来街者・観光客の避難誘導対策 ☐ 実践的な避難訓練の実施
	☐ 垂直避難ができる避難場所の確保 ☐ 車の避難場所の確保	☐ 複数の避難場所の確保	☐ 垂直避難ができる避難場所の確保 ・鶯温泉跡地を避難タワーにしては？ ・避難ビル候補の追加。 ☐ 車での避難場所（駐車スペース）の確保
	☐ 避難所機能の充実	☐ 避難所機能の充実 ・避難所の検討は必須。携行品などを考慮すべき。どれくらい私物を持ってくるかで収容人数等にも影響するのでは。	☐ 避難所機能の充実 ・東小学校の体育館までスロープで昇れるようにするなどバリアフリー対策が必要。 ☐ 防災・避難支援スペースの確保
【復興まちづくり】	☐ 地域性を活かした復興まちづくり ・球磨川では堆積土砂の影響で船が通れるルートが少なくなった。 ・アユも取れなくなると聞いている。観光に影響が出てくるのでは。 ☐ 空き地の活用、街並みの再生 ・公費解体した跡に、植木やブロックが残っている。観光客も通るまちなかが数くらにならないようにきれいにする必要がある。 ・解体後の空き地をどう活用するか？持ち主は早く売らないといけないと焦っているのでは。 ・中川原公園を撤去する/しないの議論があるが、歴史があり、旅館からの風景の要素の1つにもなっている。	☐ 中心市街地の一体的なまちづくりの方針整理 ・球磨川があつての人吉の暮らし。球磨川を活かしたまちづくり。 ・ファミリーが住める住宅をまちなかに確保。（災害公営住宅等）それに合わせ、図書館や子育て施設等併設し、まちなかに人が来るようにすべき。 ・回遊性の創出、拡大により賑わいが生まれることで店舗も増え、住民にとっても買い物しやすいまちになる。 ・昔ながらの商店街を復活させたい。 ・景観条例で、何をして良くて何がだめなのかを明確に示す必要がある。 ・横のつながり、女性部・青年部など人付き合いがある。温かみのある町。 ☐ 人が集い、過ごす風景の再生 ・空き地に小さい旅館がポンポンとできると、まちの雰囲気が変わるのでは。今は、観光客に対し、インパクトに欠ける。 ・空き地の活用の1つに、コミュニティの場が必要では。九日町は会館がないため、ビルの低層部に場所を確保できると良いのでは。 ・青井阿蘇神社から発船場までの散歩道を整備してほしい。ホテルのお客さんが散歩できると良いのでは。 ・駅から歩ける街をつくる。 ・空き地に芝生を敷くのが良い。 ・堤防を利用してトラック市を開催。	☐ 中心市街地のグランドデザインの作成 ・50年計画で「川と森のまち」として計画を作るべき。 ・住民、商売人・事業者、観光客など多様な主体それぞれにとって良いまち。 ・人間の本性に根付いた自然発生的なもの。戦火で焼けていない700年の歴史を持つまち、道がわからないのも利点。人工的なまちでは人が集まらないのではないかな。 ・まとまった緑地の整備。空き地利用で整備可能では。これからは、商業と人と緑の調和で潤いのある場所に。まちなかに芝生を植えては。木々よりも草木レベルのものを。 ・ 青井の杜に加えて、市街地に未来の森をつくることを視野に入れてはどうか。 ・人吉の売り①自然の良さが宝②人を中心とした偉人のまち③歴史・文化の宝④鉄道等産業遺産 ☐ 区画整理等による面的なまちづくりの実施 ・持ち主が自身では使わない土地等を空き地バンク等で管理できると良い。持ち主個人と不動産事業者間のやりとりだけでなく、中間に市が入りマネジメントする等の仕組みがあると良い。 ・各地区最低一つは公園を整備。今が整備をするチャンスである。 ☐ 歴史的建物や路地空間等を活かした街並み形成 ・鍛冶屋町の方で温泉や旅館の立地やそれを活かした雰囲気づくりができると良い。紺屋町、九日町とも連なって街並みをつくっていけると良いのでは。 ☐ 球磨川を活かしたまちづくり ・球磨川プロムナード軸延伸。 ・球磨川を生かした街づくりを望む。川沿いに散歩道、石垣、ベンチなどを置いてはどうか。 ・城見庭園の眺めを活かして、発船場と連携して何かできないか？ ・山田川沿いは解体されるところが多く新しく建てる場所が連なるのなら、テラス席のような形で川を向いたつくりができると良いのでは。
【治水・土砂災害対策】	☐ 治水対策 ・ダムができれば、川の水も濁って、魅力がなくなるのではないかと心配。	☐ 流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下 ・河川掘削による対処しかない。居住方法での対策だけでは駄目。 ・球磨川の支流についても考える必要がある。	☐ 流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下 ・ダムの必要性についてしっかり検討したい。住民投票をした方が良い。 ・泥水を清流に戻す必要がある。復興のキーワードは川・自然。